

## お年玉シート「応挙のとら」切り抜き切手の加貼便

永吉 秀夫

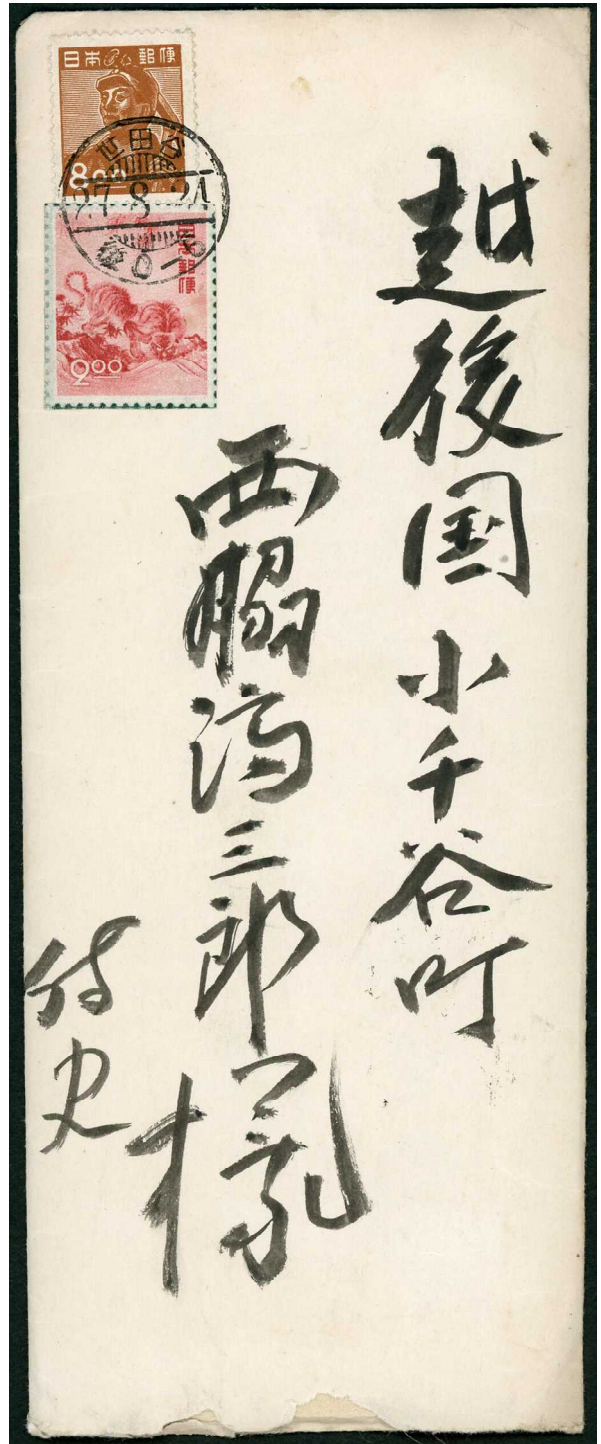
初めてお年玉つき年賀葉書が発行されたのは昭和25年、その末等賞品として発行された切手が年賀切手「応挙のとら」です。通常シートと小型シートは同日発行ですが、小型シートの方は無目打(目打型の印刷のみ)です。

この年の小型シートは発行数が少なく、カタログ価は高価ですが、賞品として国民に行き渡った小型シートは、かなり使用されています。葉書額面なので私製はがきに1枚貼りで使用された例が多いですが、コレクションに幅を持たせるためには、それ以外のさまざまな使用例も入手しておきたいものです。

発行時の書状8円時期には、8円料金の書状や6円料金の4種便(印刷物)などに、3~4枚まとめて貼って使用した例をよく見かけます。紹介品は、書状が10円に値上げされた後、値上げ分の差額料金用として、旧書状料金8円普通切手とともに使用した例です。発行後2年以上経っていますが、さほど不自然な使い方ではありません。一般人のもとに2年くらい眠っていたというのは、あり得ることでしょう。

この小型シートには目打型が印刷されていますが、その影の付き方がシート上の位置によって異なります。さくら型録をよく見ればわかるように、この封筒上の切手はシート最下段の切手です。

しかしこの切手のように四辺の「目打」が完全に見えるようにカットして使用された切手は、さほど多くありません。その点でも貴重なカバーと言えるでしょう。



書状(料金 10 円=S26.11.1 以降)

世田谷 S27(1952).8.24